

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」世界文化遺産登録20周年記念

琉球 歴史

ロマン探訪

～9つの世界遺産めぐり～
A Tour of Nine World Heritage Sites



 沖縄県

琉球王国の成り立ち



豊かな自然と独自の文化を創造し、アジアをつなぐ架け橋として発展した琉球王国。
その歴史と文化を象徴するのが「琉球王国のグスク及び関連遺産群」

沖縄の歴史は2万年以上の旧石器時代にさかのぼります。サンゴ礁を起源とし、弱アルカリ性の土壌から成る沖縄の島々は、人骨を保存する天然の保管庫のようなものです。その証拠に、沖縄各地の遺跡から保存状態の良い人骨が相次いで発見され、日本人のルーツを探る貴重な資料だと評価されています。

沖縄や奄美の島々で使われる琉球方言（琉球語）は日本語に属する言葉です。言語学者は日本語を本土方言と琉球方言に二大別します。沖縄・奄美で話される方言は、それ以外の日本で話される方言（狭義の日本語）と対等な存在なのです。また、その事実象徴されるように、沖縄や奄美の文化は古い日本文化をルーツとしています。

しかし、日本本土のはるか南に点在する島々は、時代が経つにつれて、次第に独自の歴史を形成するようになりました。13世紀に入ると、沖縄の各地にあじとと呼ばれる首長が台頭し、グスク（城）を構えて覇を競う荒々しい時代を迎えます。14世紀になると、沖縄本島の北部に北山、中部に中山、南部に南山と呼ばれる小王国



美しい石積みと6つの郭が特徴的な中城城跡。正確な築城年は不明ですが、14世紀中頃には造営されたと考えられています。護佐丸が移り住む前は先中城按司の居城でした

が出現しました（三山時代）。三山の中で最強だったのは中山の尚巴志で、1416年に北山の拠点である今帰仁グスクを、1429年には南山グスクを制圧し、琉球を統一しました。中山の拠点であった首里グスク（首里城）がグスクの頂点に立ち、琉球王国が誕生したのです。

首里城に君臨する王が統治したのは沖縄県に奄美諸島を加えた範囲、つまり琉球方言が用いられた島々でした。各地の行政を担当する役人は琉球国王が任命し、各地の人民は国王に税を納めました。その頃に歌われた神歌（オモロ）では、王のことをティダ（太陽）と讃えています。



1920年9月26日玉陵にて、琉球王国最後の国王・尚泰の長子、尚典侯の葬儀の様子



戦前の識名園。1941年に国の名勝に指定され、その時の資料を元に戦後復元されました

琉球王国の活動舞台は島々の範囲に留まりませんでした。アジアの国々の王がそうしたように、首里城の王もまた中国（明朝）の皇帝に貢物を捧げ、その臣下となる外交関係を結びました。そして、中国との親密な関係を活用して外交・貿易の範囲を日本や朝鮮、東南アジア諸国（現在のタイ、マレーシア、インドネシア、ベトナムなど）に広げていきました。海外交流事業の司令塔だった首里城には、「わが琉球は、船を用い、アジアをつなぐ架け橋の役割を果たしている」という有名な文句が掲げられていました。

1609年春、琉球は薩摩軍の侵攻を受けて敗れてしまいます。王国は存続したものの、薩摩藩や徳川将軍の影響下に置かれるようになりました。しかし、その苦難な時代においても、独自の文化を創造する努力を積み重ね、琉球というアイデンティティを保持し続けていきます。1879年（明治12年）春、日本政府は首里城の明け渡しを迫り、沖縄県を設置して琉球を日本の領域に編入しました。世に言う「琉球処分」です。この事件により、琉球王国は終わりを迎えることとなりました。

琉球王国という時代を生き、独自の歴史や文化を形成した地域、それが沖縄県の特徴といえます。

なお、琉球王国の発展と共に造られたグスクや関連資産は、海外との交流などにより独自の文化を築いた沖縄の価値を集約するものと評価され、2000年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録されています。

琉球王国歴史年表

グスク時代

三山時代

第一尚氏王統

第二尚氏王統

- 753 鑑真、南島(阿児奈波島)に漂着
- 1187 舜天、王位に就く
- 1260 英祖、王位に就く
- 1261 浦添極楽山に墓を築く(浦添ようどれ)
- 1314 この頃から三山対立
- 1350 察度、王位に就く
- 1372 中山王察度、明へ進貢
中国との冊封・進貢関係始まる
- 1380 南山王承察度、明へ進貢
- 1383 北山王怡尼芝、明へ進貢
- 1406 武寧を滅ぼし、尚思紹が第一尚氏王統樹立
- 1416 今帰仁城の北山滅亡
- 1422 尚巴志、王位に就く次男を北山監守に任ずる
- 1429 尚巴志、南山を討ち三山統一
- 1453 志魯・布里の乱起こり、首里城焼失
- 1458 護佐丸・阿麻和利の乱
万国津梁の鐘を首里城正殿にかける
- 1470 金丸、尚円と号して王位に就く
第二尚氏王統樹立
- 1477 尚真13歳で即位
- 1492 円覚寺創建
- 1501 玉陵築造
- 1519 圓比屋武御嶽石門創建
- 1524 6色の帕(冠)の制を制定
- 1529 守礼門創建
- 1531 『おもろさうし』第1巻編集
- 1579 守礼門に『守礼之邦』の扁額を掲げる
- 1609 島津の琉球侵入、尚寧王捕虜となる
- 1610 尚寧王、家康および秀忠に拜謁
- 1611 島津氏より掟十五条を通達
- 1613 薩摩への年頭使者始まる
『おもろさうし』第2巻編集
- 1637 宮古・八重山に人头税を賦課
- 1650 羽地朝秀『中山世鑑』編集
- 1709 首里城失火で全焼
- 1719 組踊をはじめて上演
- 1755 唐手(空手) 中国から伝わる
- 1799 識名園完成
- 1853 ペリー提督来琉し、江戸へ
- 1854 ペリー艦隊再び来琉、琉米修好条約調印
- 1868 王政復古、明治に改元
- 1871 廃藩置県
- 1879 琉球処分。琉球藩を廃して沖縄県となる
3月31日首里城明け渡し



国営沖縄記念公園（首里城公園）

01 しゅりじょう 首里城跡

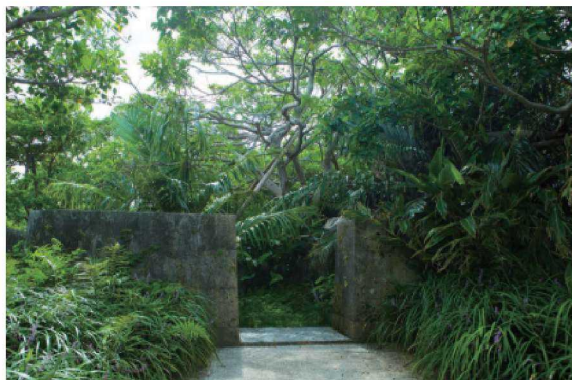
グスクの頂点に立った 琉球王国の拠点

1429年、三山が対立する時代を制して琉球王国の拠点となった首里城は、現在の規模よりは小さく、内郭と呼ばれる範囲に限られていました。16世紀前期に外郭の部分を増築し、東西約400メートル、南北約200メートル、面積約4ヘクタールの規模にまで拡大しています。その推移が分かるのは城門の形式です。瑞泉門や淑順門、美福門などの内郭の門は、城郭をつなぐようにやぐら櫓と呼ばれる木造の建物が設置されています。かんかいもん歓会門やきゅうげいもん久慶門、継世門などの外郭の門は、アーチ状に積まれた城門の上に櫓を載せる形式となっていて、この違いは時代差を物語っているのです。

首里城の象徴は正殿です。琉球王国時代は「ももつらごまうどらん百浦添御殿」と呼ばれていました。「琉球を統治する中心」という意味です。この正殿を中心に西側は政治・行政ゾーン、東側はプライベート空間「うーちばら御内原」と分けられていました。また、南西側には深い森があり、「きょうのうち京の内」と呼ばれていました。その森は神々を迎え、王国の



尚清王代（1530年頃）の創建とされる守礼門（写真上）。奉神門では、毎朝の開門時に「御開門（うけーじょー）」が実施されています（写真下）



「下之御庭」南側の石垣の向こう側に「京の内」という城内最大の信仰儀式的森があります

安泰を祈願する神聖な場所だと伝えられています。

特に重要な位置を占めたのは、正殿前の広場「御庭」です。1年を通じて様々なイベントがこの広場で行われていましたが、特に注目されるのは、中国皇帝が琉球に派遣した使節団を歓迎するための芸能公演がこの広場で行われたことでしょう。御庭に仮設の舞台を作り、琉球を代表する音楽や舞踊、演劇を披露したのです。演者は国王に仕える男性の役人たちであり、大国である中国の使節に対し、琉球の文化力をアピールする場でした。御庭は劇場やイベント空間としての性格も持っていたのです。

1879年の沖縄県設置により、首里城はその役割を終えました。そして、沖縄戦(1945年)において完全に破壊されましたが、30年余の歳月をかけて復元され、よみがえりました。



首里城正殿の鐘(万国津梁の鐘：複製)。「万国津梁」とは「世界の架け橋」という意味です



首里城祭で披露される「琉球王朝絵巻行列」。琉球国王・王妃の行列をはじめ伝統芸能団など壮大な琉球の歴史絵巻が国際通りをパレードします

首里城跡のここがおもしろい!!

首里城の東端は「東のアザナ」、西端は「西のアザナ」と呼ばれています(アザナは物見の意味)。この東西を結ぶ軸線上に御内原、正殿、御庭、そして「下之御庭」が並んでいます。中国や日本、朝鮮などでは南北の軸線に主な建物や広場を配置するのが普通ですが、琉球はあくまでも東西の軸線を大切にしていました。国王は地上の太陽と讃えられていたので、太陽の動きに合致させた、という説が有力です。



DATA

首里城公園管理センター

沖縄県那覇市首里金城町1-2 ☎ 098-886-2020

開園時間(無料区域): 4月~6月・10月~11月 8:00~19:30、7月~9月 8:00~20:30、12月~3月 8:00~18:30

開場時間(有料区域): 4月~6月・10月~11月 8:30~19:00、7月~9月 8:30~20:00、12月~3月 8:30~18:00

※入場券発売締め切りは開場時間の30分前まで

首里城公園施設の一部休場日: 7月の第1水曜日とその翌日

入場料金: 大人 820円、高校生 620円、小・中学生 310円、6歳未満無料

首里城無料ガイド: 1日6回(9:00~、10:30~、13:00~、14:00~、15:00~、17:00~)

案内時間約50分(有料区域内)、南殿・番所入口集合 ※予約不要 ※定員15名



02

そのひやんうたきいしもん 園比屋武御嶽石門



国王の道中を安全祈願した聖地

守礼門をくぐり、首里城に向かって進むと左手側。琉球石灰岩で造られた立派な門が園比屋武御嶽石門です。中央に掲げられている扁額から第二尚氏王統の尚真王の時代、1519年に築造されたことが分かります。石門の後ろに広がる森が園比屋武御嶽と呼ばれる聖地でした。

DATA

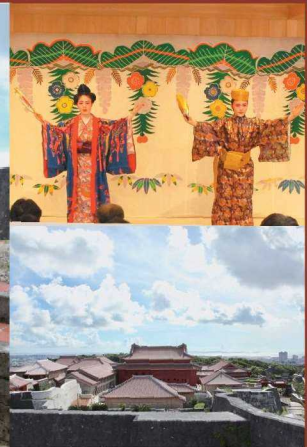
那覇市首里真和志町 1-7
(首里城公園内)

☎ 098-917-3501 (那覇市文化財課)
見学自由 無料



首里城「奥」の世界

「御内原」

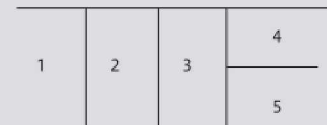


女性たちの祈りと暮らしのエリア

首里城の正殿の東側は、プライベートゾーンとしての御内原^{ウチナハラ}でした。御内原は王とその家族が生活する場所であり、それを支える女官たちが暮らしていました。その中心は「後之御庭^{アトノミナ}」と呼ばれる広場で、1年を通じて各種の神事がとり行われていました。琉球王国の祭祀は女性が担っていたため、神事の主役は御内原の女性たちで、原則として、男性が立ち入ることはできませんでした。記録が少なく、神秘のベールに包まれた場所です。

たから くらよし
案内人 高良 倉吉

歴史学者。琉球大学名誉教授。専門は琉球史。戦争で焼失した首里城の復元作業において、琉球王国に対する豊富な知識をもとに時代考証を担当



1. 女官による神事が行われていた「後之御庭」
2. 内郭の東側に建てられた「美福門」
3. 白銀門と国王の遺体を安置させた「寝廟殿（しんびょうでん）」
4. 「世誇殿（よほこりでん）」では、伝統芸能の公演が1日3回実施されています
5. 城郭の東端に築かれた物見台「東のアナザ」からの眺め



03 たまうどうん 玉陵

琉球王家の墓は、あの世の首里城である

1501年、琉球王国の全盛期を築いた尚真王が造営した王家の墓が玉陵です。サンゴ砂利を敷き詰めた2つの庭を抜けると、その奥に石造の墓が横たわっています。墓は3つの部屋からなり、正面の部屋（中室）は葬式が終わった後に亡骸を納めた場所です。年数が経過した後で骨を洗い清め、王と王妃は左の部屋（東室）に安置されました。それ以外の王族は、洗骨をすませて右手の部屋（西室）に葬られました。個人のための墓ではなく、琉球王家（第二尚氏王統）の人々が用いた集団墓でした。庭の一隅に、平仮名で刻まれた有名な碑文が建っています。

2018年12月に沖縄県内の建造物として初めて国宝に指定されました



玉陵のここが面白い!!

首里城の西に位置し、メインストリートに面して造られました。死者の眠る墓を城の近くに配置し、琉球王国を見守る祖先として大切にするという考え方がその根底にあります。石造の墓ですが、木造の建物風にデザインされています。モデルになったのは首里城の中心的な施設、正殿。「たま」は靈魂、「うどうん」は格別な建物という意味があります。琉球の精神文化を象徴しているといえます。



DATA

玉陵管理事務所
沖縄県那覇市金城町1-3 ☎ 098-885-2861
観覧時間：9:00～18:00（入場締切 17:30）
休園日：無休
観覧料：大人 300円、中学生以下 150円





04 しきなえん 識名園

中国・日本に学びつつ、琉球らしさを発揮した庭園

琉球の国王や王族が使用するために作られた2つの別邸がありました。首里城の東に御茶屋御殿（別名・東苑）、南に識名園（別名・南苑）です。2つとも沖縄戦で破壊されましたが、識名園は復元され、往時の姿を取り戻しています。識名園は1799年に創建され、中国や日本の庭園様式に学びつつ、琉球独自の庭園として表現されています。中国皇帝の使節団（冊封使）をここに迎えて宴が催されるなど、賓客の接待にも用いられていました。

中国風の六角堂（写真左）。御殿からは庭全体を見渡すことができます（写真右）



識名園のここが面白い!!

人工の池を作り、その中に2つの中島が設けられています。中国風の六角堂や石橋があるかと思えば、松などの樹木が池の周辺に植えられ、日本庭園風の物静かな佇まいもみせています。庭園を鑑賞するための中心となる建物は御殿と呼ばれ、琉球式の木造赤瓦葺となっています。育徳泉と呼ばれる湧水があり、そこには国の天然記念物シマチスジノリが見られます。中国・日本の文化に学びながらも、独自性を発揮しようとした琉球のスタンスがここでも確認できます。



識名園管理事務所

沖縄県那覇市字真地 421-7 ☎ 098-855-5936

DATA

観覧時間：4月～9月 9:00～18:00（入場締切 17:30）10月～3月 9:00～17:30（入場締切 17:00）

休園日：毎週水曜日（その日が休日又は「慰霊の日」（6月23日）のときは、その翌日）

観覧料：大人 400円、中学生以下 200円

